

駅前広場・駅前通り歩道の除雪対策は

町長 安全性・快適性に対応した取り組みが必要

小川 本町の玄関口である駅前広場及び駅前通り歩道の昨今の除雪状況について、冬期間ともなると除雪されず、歩行者通行で踏み固められただけのところも多く、歩行空間の快適性はおろか、安全性が問題であるとの指摘も少なくない。

町に毎年数件の苦情が寄せられており、都度、JR北海道に対し、歩行者の安全に配慮した除雪の実施について申し入れを行っている。

一方、ロードヒーティング整備されていても使用されていない場合などで、歩行空間に段差が生じ、人力での除雪が不十分な箇所には傾斜ができるなど、安全性や快適性に課題があると認識している。

「倶知安町みんなで親しむ雪条例」を空洞化させない、今年度冬期間の駅前広場及び駅前通り歩道の除雪対策への意気込みを伺う。

駅前通りの除雪体制は、昭和50年から53年に流雪溝が整備され、歩道部と間口堆雪の処理を住民が行うという、「雪条例」制定の以前から互いに協力し責任を分かち合い、除雪体制を確立してきた。

駅前広場については、引き続き歩行環境の改善をJR北海道に申し入れを行うとともに、町が管理しているものについては、引き続き歩行者の安

全に配慮した除雪作業を進めていく。

豪雪のまち倶知安町は、駅前商店街における歩行空間の安全性や快適性に

対応した除雪への取り組みが必要であると考えている。今後、特に新幹線開業に向けた駅周辺整備を進めるに当たり、商店連合会など関係団体とも駅前歩道利用者の安全性や快適性確保に向けた協議を行いながら、地域で支え合う新たな仕組みを模索していきたい。

旭ヶ丘総合公園内の「フロートレイル」事業は

小川 本町は昨年4月、世界に誇れる国際リゾートづくり加速化事業業務委託料を改めて予算措置した。

その中のフロートレイルコース実証実験の取り組みは、観光協会を受託者とし、実証コース造成及び旭ヶ丘利用構想を策定とする業務委託料400万円で実証実験を行った。

その後の取り組み状況について伺う。

町長 本年度において、直営により重機等を活用しながら約1kmの延長で園路の整備を行い、利用に供している。

本年度、観光協会において実施のフロートレイル事業で利用されるコースは園路をベースとするものであり、町としては、昨年度策定のスキー場夏季利用整備構想の実現性の検証が必要であり、散

策等の一般の公園利用に及ぼす影響を注視しつつ、多くの人に親しまれる公園づくりを検討していきたい。

実費相当分費用（観光協会が利用者から徴収する利用料金）については営業ではないと認識している。

また、占用許可については昨年同様に、減免の措置で対応したい。

管理道路使用についてはこの許可には含まれていないが、他の住民の方に支障ないように使っていたらいいと思っ

る。

軽車両（乗り入れ）が違法かについては、期間においてそういう利用するので支障はないと認識している。

フロートレイル
夏のグレンデをマウンテンバイクで下るといふスポーツ



小川 不朽 議員



駅前通り（道道271号線「倶知安停車場線」）

一般質問 小川 不朽